

ジュリアン・ シュナーベル

Julian Schnabel 1951- アメリカ

僕としては言葉をイメージとして見ているわけだな。言葉とは必ず外界と関わりをもつものだけれども、それ自体の配列のなかで自らを脱構築していくという側面を持っている。 ジュリアン・シュナーベル

ジュリアン・シュナーベルは、1980年代、ニュー・ペインティングの旗手と呼ばれ、壊れた陶器の皿をキャンバスに貼付けた巨大な絵画で一躍有名となった。1990年代以降、映画監督としても活躍。

「葉（導管）」(1984)は、生命力に満ちた葉っぱの葉脈が、物質感のあるインクで表現され、絵画作品自体をひとつの有機体と感じさせるような作品。「オオカミ」(1988)の画面中央の文字「Loup」はフランス語で「オオカミ」、絵の下の文字は「羊小屋の中のオオカミ」の意。シュナーベルは「言葉をイメージとして見ている」と語り、意味だけでなく文字のフォルムによって様々な言語を作品の中に持ち込んだ。